

総監督は元野球人

横須賀市のサッカーチーム「横須賀シーガルズ」の女子は、1990年代半ばから、飛躍的に実績を伸ばし始める。96年には、関東中学生大会優勝と第1回J15選手権連覇して全国大会も制し、98年にはJ15選手権全国大会で2連覇を果たす。

代表の森雅夫さん(69)は言う。「彼がいたから、強くなれた」

現在女子チームの総監督を務める龟田勝昭さん(72)が、その人だ。女子チームの指導に関わるようになったの

「異端児」



は、95年。龜田さんの就任と軌を一にしてチームは急成長した。偶然ですよ。彼はサッカーワー界の異端児。30歳過ぎまでサッカーボールなんてほとんど触ったこともなかつたんだから

横須賀シーガルズ女子を強豪に育てた龜田さん。野球出身のキャリアを持つ変わり種だ。横須賀市佐原40歳横須賀フットサルクラブで

◎ 2 ◎

龜田さんは藤沢市出身。小学5年の時、夏の甲子園で優勝した湘南高校の地元バレードを見て魅了されて以来、野球一筋だった。中学時代は甲子園出場で県大会に優勝し、湘南高時代は甲子園出場をして鳴らして神奈川

女子サッカー王国横須賀

全国行脚し理論を体得

大会で3年連続8強以上に進出した。卒業後は社会人の強豪・いすゞ自動車(当時川崎市)で活躍。59年の第30回都市対抗で8強に進んだ実績を持つ。

そんな龜田さんがサッカーを始めたのは、31歳。引退後に入り楽しむために社内

転職は1977年に訪れる。長男の志努さんが当時通っていた横須賀市立栗田小を基礎としたクラブチームのシーガルズが発足。コチとして参加し、本格的にサッカーを学び始める。書籍をむさぼり読み、本場・静岡などのチームを訪ねて歩いた。「真リーグ2部止まりで、大きなキックアドラッシュ一本や

り」。草サッカーに近いレベルだった。しかし、プレーを重ねるごとに、その魅力に気が付いたという。「野球は過去の出来事の集積から苦心を尋き出せるが、同じ場面に一度も40年以上やっているが、同じ場面に一度も出くわしたことがない。相手と自分の位置関係、ボールの場所……。サッカーにデータはない。自分の判断力が試されるから、最高に面白い」

◎ 3 ◎

転機は1977年に訪れる。長男の志努さんが当時通っていた横須賀市立栗田小を基礎としたクラブチームのシーガルズが発足。コチとして参加し、本格的にサッカーを学び始める。書籍をむさぼり読み、本場・静岡などのチームを訪ねて歩いた。「真リーグ2部止まりで、大きなキックアドラッシュ一本や

り」。草サッカーに近いレベルだった。しかし、プレーを重ねるごとに、その魅力に気が付いたという。「野球は過去の出来事の集積から苦心を尋き出せるが、90年代前半は仕事が忙しく、サッカーに携わる時間が減った。「もう親父コトチの出番は終わりかな」。そんなことも考えたといふ。しかし、周りが放っておかなかった。「女子チームの指導をお願いできませんか?」。95年、森代表からの一言で魂に火が付いた。「私の指導が未知の女子に通用するのか、やってみたい」と

「異端児」が、5人の女子日本代表を生み出すスタート地点に立った、その瞬間だった。